

産学官共同研究で開発した漆塗料で、漆塗りの活用範囲を飛躍的に広げた産地企業

福島県会津若松市の(株)ユーアイズ(従業員4名・資本金2,300万円)は、会津塗りの技術を進化させて、飛躍的に漆塗りの活用範囲を広げている。現在では、建築内装部材やインテリア製品のみならず、携帯電話カバーや自動車座席部品に対する塗装も受注している。

会津若松市は会津塗りの漆器の町として発展したが、バブル崩壊後は観光客の減少やギフト需要の落ち込みなどから漆器への需要が低迷している。同社は、1996年に地元漆器問屋8社により、住宅における日本間の内装材を会津塗ブランドで展開することを目的に設立された。漆塗料には、乾燥に時間が掛かり大量生産する工業製品への応用が難しいことや、表面硬度が低く傷つきやすい弱点があり、これまで伝統的用途以外に漆塗り技術が応用されることはほとんどなかった。同社は、「福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター」との産学官共同研究により、速乾性をもち塗装面も固く仕上がる「含漆UV塗料」を開発し、1998年に福島県と共に特許を取得した。

漆塗りの工程は細かく分業化されているため、同社の受注が増加すれば産地全体への波及効果がある。

携帯電話カバーへの塗装

